

(資料 1)

平成 20 年度 事 業 報 告

(2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会 員 現 況

会員種別	平成 20 年度			参 考	
	2008. 4. 1 現在数 (A)	2009. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2008. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	16	17	1	16	1
終身会員	104	96	△8	92	4
正 会 員	3,449	3,337	△112	3,424	△87
学生会員	794	839	45	810	29
賛助会員	217 社 (360 口)	203 社 (333 口)	△14 社 (△27 口)	214 社 (357 口)	△11 社 (△24 口)
特殊会員	117 社 (130 口)	102 社 (115 口)	△15 社 (△15 口)	116 社 (129 口)	△14 社 (△14 口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- (1) 選奨規則の改正(功績賞選定委員数) (2008. 7. 23)
(2) 研究委員会規則・同実施細則の改正 (2009. 1. 23)

3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

64 巻 4 号～65 巻 3 号 (2008 年 4 月～2009 年 3 月)

巻 号	64 巻									65 巻			計	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
本文ページ	86	66	40	62	94	66	44	56	50	62	48	58	732	
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言									2			2	
	音叉	2			2			2					6	
	論文	46 (4)	43 (4)	15 (2)	22 (3)	14 (2)	18 (2)	19 (2)	8 (1)	14 (2)	20 (2)	18 (2)	19 (2)	256 (28)
	技術報告								3 (1)					3 (1)
	寄書													0
	技術プラザ								11 (3)					11 (3)
	特別講演					8 (1)						3 (1)		11 (2)
	解説 (小特集を含む)	32 (1)	18 (3)	19 (3)	32 (6)	24 (3)	37 (7)	19 (3)	29 (5)	18 (3)	35 (6)	20 (3)	35 (7)	318 (50)
	会議報告 (シンポジウム報告)									9 (3)				9 (3)
	連載企画	1 (1)		6 (6)										

主 な 論 文 記 事	研究発表会報告					1						1		2
	選奨記事・紹介記事					8	2							10
	総会記事					9								9
	追悼文						2							2
	書評	1		1			1							3
	研究会発表論文一覧					25								25
	博士論文紹介													0
	コーヒープレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	64巻総目次									4				4
	学会記事等	1	2	1	3	1	3		2	1	2	2	1	19
	投稿規定										17			17
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
会告	7	25	27	14	15	61	17	19	21	11	55	13	285	
広告	11	11	11	13	11	11	11	13	9	9	9	9	128	
発行部数	5300	5150	5150	5100	5100	5100	5100	5100	5100	5100	5100	5100		
小特集タイトル	※1			※2		※3		※4		※5		※6		

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 建設工事騒音の予測モデル

2 音でみる、音をみる;アコースティックイメージングの現状

3 工業製品の音のデザイン

4 マイクロホン開発における各種技術分野の動向

5 超高周波音の効果に関する最近の話題

6 音支援 (音バリアフリー) を考える

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2008年5月、7月、9月、11月、2009年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊を刊行した。

Vol. 29 No. 3~Vol. 30 No. 2 (2008年5月~2009年3月)

Vol.		Vol. 29				Vol. 30		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		44	62	36	67	66	94	369
主 な 論 文 ・ 記 事	Paper	18 (2)	35 (4)	17 (2)	27 (3)	41 (6)	50 (6)	188 (23)
	Technical Report	8 (1)			6 (1)		15 (2)	29 (4)
	Acoustical Letter	13 (4)	13 (3)	15 (5)	22 (7)	15 (4)	25 (7)	103 (30)
	Foreword					1 (1)		1 (1)
	Invited Review		9 (1)					9 (1)
	Review					5 (1)		5 (1)
	Short Note				3 (1)			3 (1)
	和文誌英文目次	2	2	2	2	2	2	12
	和文誌論文等内容梗概	2	2	2	1	2	2	11
	Vol. 29 総目次				6			6
発行部数		5150	5050	5050	5050	5050	5050	
小特集タイトル						※1		

注) 欄中の () 内数値は編数。

※1 Special issue for the communication of the Japan-China Joint Conference

on Acoustics 2007(JCA2007)

- (3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J-STAGE) のサイト(URL <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ast/-char/en>)で、引き続いて Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。

4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2008年3月17日、18日、19日の3日間、千葉工業大学を会場として開催した。参加者実数は、1463名である。
 なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とする新人盛会を開催した。
 また、アコースティックテクノプラザ(展示会)を併催した。
 スペシャルセッションは、分野横断型スペシャルセッションとして4件、「建設工事騒音の予測方法“ASJCN-Model 2007”(招待講演3件)」、「生活「音」環境と音バリアフリー(招待講演6件)」、「超音波が聴覚に及ぼす影響と安全性確立に向けて(招待講演3件)」、「人と音と脳の科学」が拓く音響学の新しい地平(招待講演3件)」のほか、単独分野で1件、「多言語音声処理 一言語の壁を越えた音声コミュニケーションに向けて」(招待講演3件)、「今の時代の魅力ある音響教育(招待講演3件)」で実施した。
- (2) 秋季研究発表会は、2008年9月10日、11日、12日の3日間、九州大学大橋キャンパスを会場において、九州大学大学院芸術工学研究院と共催して開催した。参加者実数は、1127名である。
 スペシャルセッションは、分野横断型スペシャルセッションとして2件、「障がい者のための教育と音響学の関わり(招待講演4件)」、「音を知る、音で見る、音を見る：アコースティックイメージングの現状と将来(招待講演6件)」のほか、単独分野で3件、「ユビキタス社会における超音波応用技術(招待講演5件)」、「組込み技術と音声情報処理(招待講演3件)」、「マルチメディア作品における音と音楽(招待講演3件)」で実施した。
 なお、九州支部創立10周年記念行事を併催した。
- (3) ポスター賞は、春季研究発表会は6件、秋季研究発表会は9件を選定し贈呈した。
- (4) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音声 A	94	88
	音声 B	91	83
	聴覚/聴覚・音声	51	56
	電気音響	108	102
	音楽音響	24	36
	騒音・振動	46	64
	建築音響	41	75
	超音波	85	73
	水中音響	6	6
	アコースティック・イメージング	25	28
	音響教育		9
	SS[音声A・B]	14	6
	SS[音響教育]	12	
	SS[音と脳科学]	3	
	分野横断[建設工事騒音の予測]	8	
	分野横断[超音波暴露]	5	
分野横断[音バリアフリー]	17	11	
計	630	637	

特別講演	演 題	擬似感性 — ロボットの持つ感性とは —	心の物語の紡ぎ方
	講 師	千葉工業大学教授 富山 健 氏	九州大学教授 北山 修 氏

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超 音 波	野村 徹	11	104	アコースティックイメージング, 音響化学研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	吉久 光一	10	62	建築音響, アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
電 気 音 響	浅野 太	11	147	音楽音響, 聴覚研究会との合同開催の分を含む
音 声	小林 隆夫	8	156	聴覚研究会との合同開催の分を含む
聴 覚	相川 清明	8	135	音声, 電気音響研究会との合同開催の分を含む
建 築 音 響	佐藤 史明	10	53	聴覚, 騒音・振動, アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
音 楽 音 響	柳田 益造	8	94	電気音響研究会との合同開催の分を含む
音 響 化 学	酒井 啓司	1	15	音波の物性と化学討論会 (超音波研究会と共催)
アコースティックイメージング	秋山いわき	5	32	超音波, 建築音響, 騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
合 計		72	798	

(2) 騒音・振動, 聴覚, 建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で実施した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 第 40 回国際騒音制御工学会議 (Inter-Noise 2011) の日本開催を招致するため, (社) 日本騒音制御工学会と協力して同招致活動を実施し, 大阪で開催することとなった。

イ. IEC/TC29 会議を 2009 年 11 月 9 日から 13 日の間, (社) 日本騒音制御工学会, (独) 産業技術総合研究所との共催で, 東京で開催する準備を行った。

(2) 当学会が会員となっている国際音響学会 (ICA), 国際騒音制御工学会 (I-INCE) の総会等に出席し, その活動に協力した。また, 西太平洋地区音響学会 (WESPAC) に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

(1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格 (JIS) に関して 5 年ごとの見直し作業を行った。

(2) 音響に関する国際規格 (ISO/TC 43, 同/SC1, 同/SC2 及び IEC/TC29 関係) の審議を日本規格協会から委託され, それぞれの専門委員会 (橘 秀樹委員長 [ISO], 佐藤宗純委員長 [IEC]) において審議し, 結果をとりまとめて報告した。

8. 調査研究委員会の活動

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所から「道路交通騒音の予測及び対策手法の検討」及び名古屋高速道路公社から「平成 20 年度道路交通騒音の予測及び対策手法の検討業務委託」を受託。さらに(株)環境技術研究所から「平成 20 年度道路交通騒音の音響パワーレベルに関する研究」を受託。

道路交通騒音調査研究委員会(山本貢平委員長)が作業を実施し、その成果を委託者に報告した。

(2) 音響教育に関する調査研究

音響教育調査研究委員会(荒井隆行委員長)において、音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。また、国立科学博物館と共催して児童生徒を対象とする“音の科学教室”等を開催した。

(3) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会(上羽貞行委員長)において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。また、当学会 2008 年春季研究発表会及び秋季研究発表会において、スペシャルセッションを開催した。

(4) 超音波暴露に関する調査研究

超音波暴露調査研究委員会(蘆原 郁委員長)において、強力超音波、骨導超音波、楽音に含まれる超高周波音など、超音波が人体に及ぼす影響・評価について、定量的な指針確立に向けての情報交換の場を提供し、提言を行う活動を実施した。また、当学会 2008 年春季研究発表会において、スペシャルセッションを開催した。

(5) 音と脳科学に関する調査研究

音と脳科学調査研究委員会(本田 学委員長)において、人と音と脳の関わりについての調査研究を実施した。また、当学会 2008 年春季研究発表会において、スペシャルセッションを開催した。

(6) 熱音響技術に関する調査研究

既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を研究の目的とする熱音響技術調査研究委員会(渡辺好章委員長)を新たに設置した。

9. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第 32 回功績賞受賞者は、大串健吾、比企静雄、山之内和彦の 3 氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

(2) 佐藤論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌 63 巻 1 号～12 号、64 巻 1 号～12 号並びに AST 誌 Vol. 28 No. 1～No. 6, Vol. 29 No. 1～No. 6 に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2009 年春季研究発表会選奨会場(2009 年 3 月 18 日)で本賞を贈呈した。

第 49 回佐藤論文賞受賞論文(敬称略)

○江原宏幸・押切正浩・山梨智史・森井利幸・佐藤 薫・吉田幸司(松下電器産業)

「高能率符号励振線形予測符号化と帯域選択型変形離散余弦変換符号化を用いた 32kbit/s スケラブル広帯域音声・オーディオ符号化方式の開発」日本音響学会誌 64 巻 4 号

○坂本慎一(東京大学)・長友 宏(スペクトリス)・牛山 歩(大和ハウス工業)・橘 秀樹(千葉工業大学)

「Calculation of impulse responses and acoustic parameters in a hall by the finite-difference time-domain method」Acoustical Science and Technology 誌 29 巻 4 号

○守谷直也・金田 豊(東京電機大学)

(3) 栗屋 潔 学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2008 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2009 年春季研究発表会選奨会場(2009 年 3 月 18 日)で本賞を贈呈した。

第 26 回栗屋 潔 学術奨励賞受賞者 (敬称略)

ア. 2008 年春季研究発表会

○大谷 真 (東北大学)

「擬似頭の頭部伝達関数の境界要素解析と実測の比較」

○豊田政弘 (京都大学)

「騒音振動問題に対する FDTD 解析を用いた周波数特性予測について」

○南條浩輝 (龍谷大学)

「情報検索システムの音声インターフェースのための単語重要度の自動推定とそれに基づく音声認識」

イ. 2008 年秋季研究発表会

○岡本則子 (大分大学)

「アンビエントノイズを利用した材料の吸音特性の in-situ 測定に関する研究
ーその 2 統計入射吸音率の算出ー」

○戸田智基 (奈良先端科学技術大学院大学)

「因子分析トラジェクトリ HMM に基づく統計的音声スペクトル推定法」

○星 和磨 (日本大学)

「楕円フーリエ解析による帯域制限室形状の生成と内部に生じる音場の関係」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2009 年春季研究発表会選奨会場 (2009 年 3 月 18 日) で本賞を贈呈した。

第 4 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者 (敬称略)

○佐藤 逸人 (神戸大学大学院)

「「聴き取りにくさ」を用いた音声伝送性能の評価とそのユニバーサルデザインへの応用」

○戸田 智基 (奈良先端科学技術大学院大学)

「音声パラメータ系列の最尤推定に基づく声質変換」

(5) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者、賛助会員所属の個人、グループに贈られるもので、公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第 17 回技術開発賞受賞者 (敬称略)

○オリンパス(株)先進技術研究所

「デジタル 1 眼レフカメラのブレ補正のための撮像素子駆動用超音波モータの開発」
舟窪朋樹(オリンパス(株)), 川合澄夫 (オリンパスイメージング(株))

○(株)神戸製鋼所生産システム研究所計測技術研究室

「ポケットサイズブライント音源分離・抽出マイクロホンの開発」

稗方孝之, 池田陽平, 橋本裕志, 山下俊郎, 森田孝司((株)神戸製鋼所)

10. 講習会, 講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会 (敬称略)

事業委員会 (伊藤洋一委員長) が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとお

りである。

ア. 「音源定位と音源分離の基礎」(第102回技術講習会)

期 日 ; 2008年6月30日~7月1日 会場 ; 全国家電会館

講 師 ; 浅野 太 (産業技術総合研究所)

受講者数 ; 60名

イ. 「強力超音波の基礎と応用」(第103回技術講習会)

期 日 ; 2008年7月17日 会場 ; 全国家電会館

講 師 ; 中村健太郎 (東京工業大学), 渡辺裕二 (拓殖大学), 山森春男 (本多電子)

受講者数 ; 51名

ウ. 「建設工事騒音の予測モデル “ASJ CN-Model 2007”」

(第16回音響技術セミナー)

期 日 ; 2008年7月24日 会場 ; 全国家電会館

講 師 ; 橘 秀樹 (千葉工業大学), 縄岡好人 (大林組技術研究所),
西ヶ谷忠明 (日本建設機械化協会), 山本貢平 (小林理学研究所),
福島昭則 (ニューズ環境設計), 坂本慎一 (東京大学生産技術研究所),
田近輝俊 (環境技術研究所), 横田考俊 (小林理学研究所)

受講者数 ; 66名

エ. 「デジタル信号処理の基礎」(第104回技術講習会)

期 日 ; 2008年11月6日~7日 会場 ; 東京電機大学神田キャンパス

講 師 ; 金田 豊 (東京電機大学)

受講者数 ; 60名

(2) サマーセミナー (敬称略)

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」(第11回サマーセミナー)

期 日 ; 2008年7月31日~8月2日 会場 ; 長野県白馬・シエラリゾート

講 師 ; 赤木正人 (北陸先端科学技術大学院大学), 荒井隆行 (上智大学),
尾本 章 (九州大学), 及川靖広 (早稲田大学), 大内康裕 (早稲田大学),
大川茂樹 (千葉工業大学), 須田宇宙 (千葉工業大学), 瀧浪弘章 (リオン),
中村健太郎 (東京工業大学), 三井田惇郎 (千葉工業大学),
三浦雅展 (龍谷大学), 山崎芳男 (早稲田大学), 山田真司 (金沢工業大学),
横田考俊 (小林理学研究所)

受講者数 ; 78名

(3) ビギナーズセミナー (敬称略)

ビギナーズセミナー実行委員会 (大川茂樹委員長) で今年度から初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。

日 時 ; 2008年9月10日(水)17:30~19:00

会 場 ; 九州大学大橋キャンパス

講 習 ; A) 音響学の基礎理論 : 波動方程式を中心に

講師 尾本 章 (九州大学大学院)

参加者 約100名

B) Applications of Psychoacoustics (音響心理学の応用)

講師 Hugo Fastl (Technische Universitaet Muenchen)

参加者 約60名

1.1. 出版事業

出版委員会 (鈴木陽一委員長) に属する3つの編集委員会, 音響テクノロジーシリーズ編集委員会 (正木信夫委員長), 音響入門シリーズ編集委員会 (鈴木陽一委員長), 音響サイエンスシリーズ編集委員会 (岩宮眞一郎委員長) において, それぞれ出版企画, 内容を審議した。

1.2. 学会電子化推進に関する活動

電子化推進委員会 (武田一哉委員長) において, Web を利用した各種会員サービスについて検討した。

1.3. 会勢拡大及び広報に関連する活動

(1) 広報委員会 (宇佐川毅委員長) において, メーリングリストを利用した会員へのメールニュースを送付し, 会員への迅速な情報伝達を図った。

(2) 活性化委員会(尾本 章委員長)において、学生フォーラムの活動について検討した。

1 4. 通常総会の開催

(1) 第 42 回通常総会

2008 年 5 月 13 日、日本大学理工学部 1 号館大会議室において開催した。なお、出席者は、119 名(うち委任状による出席 72 名)であった。

1 5. 理事会、役員会並びに委員会活動

(1) 理事会

平成 20 年度理事会は、2008 年 4 月、2009 年 2 月、3 月の 3 回開催した。

(2) 役員会

平成 20 年度役員会は、2008 年 8 月を除く毎月、計 11 回開催した。

(3) 企画委員会

平成 20 年度企画委員会(瀧浪弘章委員長)は、2008 年 8 月を除く毎月、計 11 回開催した。

(4) 編集委員会

平成 20 年度編集委員会(正木信夫委員長)は、2008 年 5 月、7 月、9 月、11 月、2009 年 1 月及び 3 月の計 6 回開催した。

(5) 学術委員会

平成 20 年度学術委員会(金井 浩委員長)は、2008 年 7 月、9 月、12 月、2009 年 3 月の 4 回開催した。

(6) 研究発表会準備委員会

平成 20 年度研究発表会準備委員会(大鶴 徹委員長)は、2008 年 7 月、9 月、12 月、2009 年 3 月の 4 回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、7 月、12 月の 2 回開催した。

(7) 国際渉外委員会

平成 20 年度国際渉外委員会(松川真美委員長)は、2008 年 9 月、2009 年 3 月の 2 回開催した。

1 6. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	3 件	(社)日本機械学会ほか
協 賛	30 件	(社)計測自動制御学会ほか
後 援	2 件	(社)日本電子回路工業会ほか
計	35 件	

1 7. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 役員会

関西支部役員会は、2008 年 4 月、6 月、10 月、12 月、2009 年 2 月、3 月の 6 回開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要(敬称略)
支部総会	20. 4. 24	村田製作所本社	出席者 193 名(うち委任状 169) / 定足数 121 名
講演会・見学会	20. 4. 24	村田製作所本社	球形スピーカに関する講演会 ロボット「ムラタセイサク君」のデ モを中心とした村田製作所本社の 見学 参加者 45 名

聴覚研究会	20. 5. 23 ～ 24	同志社大学	発表件数 23 件 参加者 58 名
音声研究会	20. 5. 29 ～ 30	神戸大学	発表件数 20 件 参加者 40 名
電気音響研究会	20. 5. 29 ～ 30	関西大学	発表件数 20 件 参加者 87 名
音楽音響研究会	20. 5. 31	同志社大学	発表件数 8 件 参加者 59 名
電気音響研究会	20. 7. 18	NTT-CS 研究所	発表件数 20 件 参加者 34 名
建築音響研究会	20. 7. 30	関西大学	発表件数 6 件 参加者 27 名
第 4 回動物音響談話会	20. 10. 4	同志社大学	講演 4 件 参加者 31 名
見学会・講演会	20. 10. 17	朝日放送新社屋	朝日放送新社屋の設計、設備に関する講演会 朝日放送新社屋の見学 参加者 42 名
聴覚基礎理論談話会	20. 10. 18	神戸市立神戸セミナーハウス	参加者 27 名
電気関係学会関西支部 連合大会	20. 11. 8 ～ 9	京都工芸繊維大学	大会全体参加者 840 名 シンポジウム 54 件 一般 345 研 音響関係シンポジウム 5 件 17 名 音響関係一般講演
第 11 回若手研究者 交流研究発表会	20. 12. 17	キャンパスプラザ京都	発表件数 31 件 参加者 81 名 支部長賞 1, 奨励賞 8
電気音響研究会	20. 12. 19 ～ 20	龍谷大学	発表件数 17 件 参加者 80 名
超音波研究会	21. 1. 29 ～ 30	同志社大学	電気音響研究会と共催

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2009 年 2 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	20. 5. 21	東北大学工学部	
第 1022 回学術講演会	20. 5. 21	東北大学工学部	「聴覚による 3 次元空間知覚メカニズムとそのモデル化」 講師 宇佐川毅 氏(熊本大学工学部) 来聴者 250 名
音楽音響研究会・電気音響研究会	20. 6. 27	岩手県立大学	
音声研究会	20. 7. 17 ～ 18	岩手県立大学	
電気音響研究会・聴覚研究会	20. 8. 4 ～ 5	東北大学電気通信研究所	
電気関係学会東北支部 連合大会	20. 8. 21 ～ 22	日本大学工学部	発表件数 376 件 参加者 650 名 特別講演「義に死すとも不義に生きず 一会津藩松平容保の決断」 講師：星 亮一 氏(作家)

			来聴者 110名
超音波研究会	20. 9. 25 ～ 26	東北大学大学院	
騒音・振動研究会	20. 10. 17	福島大学	
電気音響研究会	20. 12. 4 ～ 5	アルパイン	
建築音響研究会	20. 12. 10	東北大学電気通信研究所	
平成 21 年東北地区若手研究者研究発表会(共催)	21. 2. 26	東北学院大学	「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」
第 1039 回学術講演会	21. 3. 12		演題：「高精度情報通信時代を支える弾性表面波素子」 講師 門田道雄 氏 (村田製作所)

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2008年12月、2009年3月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
騒音・振動研究会	20. 5. 30	名城大学天白キャンパス	講演件数 5 件 参加者 38 名
東海地区音声関連研究室 M2 中間発表会(協賛)	20. 8. 1	豊橋技術科学大学	講演件数 43 件 参加者 136 名
電気関係学会東海支部連合大会	20. 9. 18 ～ 19	愛知県立大学	一般講演 617 件 (音響部門 10 件) シンポジウム 3 件 チュートリアル 3 件 参加者 1216 名
音声研究会	20. 11. 20	ソフトピアジャパン	講演 一般講演 6 件 招待講演 3 件 参加者 28 名
東海地区騒音振動等若手セミナー	21. 1. 21	愛知工業大学本山キャンパス	講演件数 9 件 参加者 35 名
見学会	21. 3. 4	株式会社デンソー	デンソーギャラリー及び本社実験棟 参加者 9 名
専門講習会 (協賛)	21. 3. 13	ローズコートホテル	テーマ「グリーン IT に向けた技術開発の最前線」 参加者 71 名
支部総会	21. 3. 26	名古屋大学	参加者 14 名

(4) 九 州 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2009年3月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
音楽音響研究会	20. 9. 9	長崎県立大学シーボルト校	
電気関係学会九州支部連合大会	20. 9. 24 ～ 25	大分大学	発表総数約 700 件(内、音響関係 20 件)
音声研究会	20. 10. 23 ～ 24	熊本大学	

電気音響研究会	20. 11. 20 ～ 21	大分大学	
聴覚研究会	20. 12. 12 ～ 13	虹ノ松原ホテル	
騒音・振動研究会	20. 12. 22	九州大学・西新プラザ	
YK-JCA2009	21. 2. 7	韓国アンドン	発表件数 日本 25 件, 韓国 15 件
聴覚に関するワークショップ	21. 2. 28	熊本大学	
支部総会	21. 3. 28	熊本大学・工学部	出席者 81 名(うち委任状提出者 63 名)
講演会	21. 3. 28	熊本大学・工学部	演題「視聴覚音声知覚の脳内メカニズムをめぐって」 講師 積山 薫 氏 (熊本大学)

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会、研究会における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は5名であった。

エ. 支部 10 周年記念行事

平成 20 年 9 月 9 日、九州大学大橋キャンパスにおいて、「博多で感じるアジアのかおり」と題する記念コンサートを開催した。会員 88 名、会員外 95 名の参加があった。

平成 20 年 9 月 10 日、九州大学大橋キャンパスにおいて九州支部創立 10 周年記念式典を開催した。森本会長並びに韓国音響学会嶺南支部 Jongkil Lee 支部長からの祝辞があった。また、九州支部支部長から 10 周年の歩みについて紹介があった。

(5) 北 陸 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2008 年 4 月、9 月、11 月、2009 年 2 月、3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	20. 4. 24	金沢蓄音機館	出席者 31 名 (うち委任状提出者 14 名)
騒音・振動研究会	20. 7. 25	金沢工業大学	発表件数 5 件 参加者約 10 名
電気関係学会北陸支部 連合大会	20. 9. 12 ～ 13	富山大学	音響関係発表 14 件 招待講演 1 件
電気音響研究会	20. 10. 23 ～ 24	富山県立大学	発表件数 19 件 参加者約 50 名
音響フォーラム in 北陸	20. 11. 4	金沢都ホテル	基調講演 1 件 研究発表 8 件 参加者 108 名
音楽音響研究会	20. 11. 15 ～ 16	金沢工業大学	発表件数 23 件 参加者約 46 名
平成 20 年度北陸地区学 生による研究発表会	21. 3. 1	富山商船高専	音響関係発表 12 件)
第 1 回音響・超音波ジョ イント研究会	21. 3. 7	金沢工業大学	発表 13 件 参加者 20 名

ウ. 表彰

電気関係学会北陸支部連合大会における発表者のうち、2 名に優秀論文発表賞を贈呈した。